

被害状況について

○秋季におけるサケ被害状況について

えりも漁業協同組合から提供された秋サケ漁獲量と、東京農業大学による各定置網漁業者への被害尾数アンケート調査の結果から、2011年から2017年の被害状況を表1及び図1に示した。(漁獲尾数はえりも漁業協同組合算出のものを用いた(2017年度冬島小定置のみ3.3kgから逆算)。)

表1. えりも地域(21ヶ統)における秋サケ定置網の被害状況

	漁獲尾数 (万尾) a	被害尾数 (万尾) b	被害尾数割合 (%) (a/(a+b))*100
2011年	51.6	1.3	2.50
2012年	85.7	2.1	2.43
2013年	121.5	2.2	1.75
2014年	117.2	3.6	2.99
2015年	148.2	3.4	2.22
2016年	38.3	2.1	5.10
2017年	31.7	1.6	4.83



図1. えりも地域における秋サケ定置網の被害状況

2017年の被害量は少なかったが、秋サケ定置網漁による漁獲量が例年に比べ低い傾向を示しており被害割合としては高くなっている。これはゼニガタアザラシの個体群管理を開始した2016年と同様の傾向であり、引き続き、例年並みの漁獲量時の被害量を調査する必要がある。

また、2016年までの被害額の推移を図2に示した。漁獲量に応じて単価が変動するため、被害額については、被害尾数の推移に比べ各年の差が小さくなるものの、被害尾数と同様の傾向を示している。

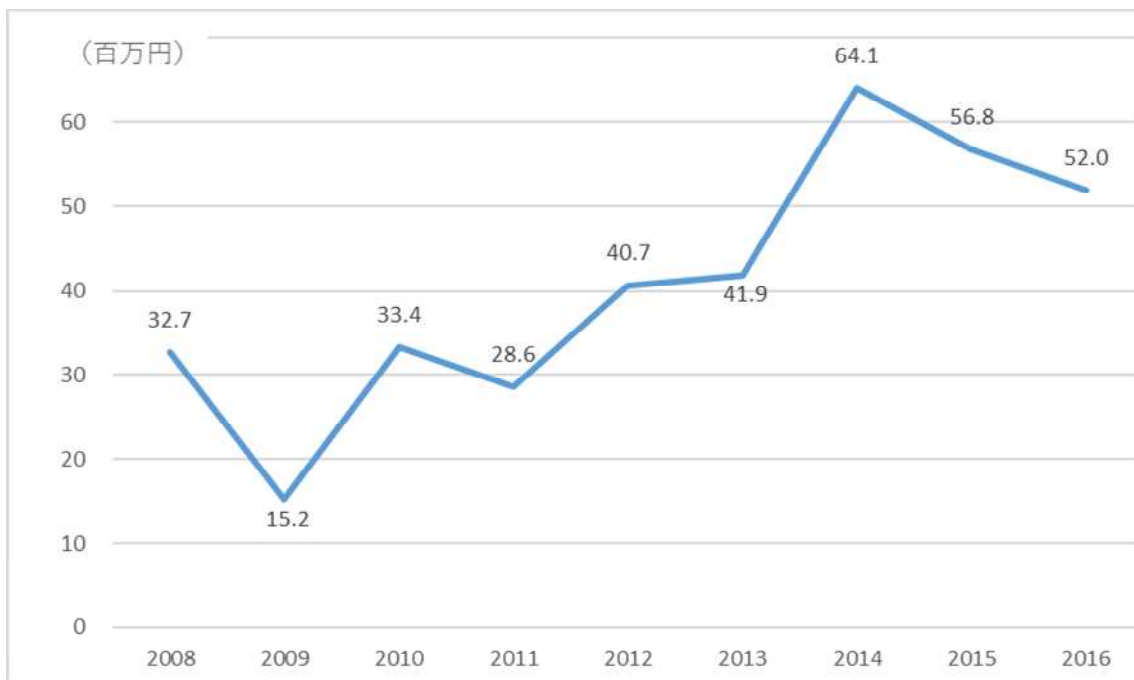


図2. 日高管内のゼニガタアザラシによる漁業被害額の推移
(2017 北海道水産林務部公表資料より作成)

地区別の被害状況については、2016年と同様に、東洋地区と襟裳岬地区において2015年以前より被害量が大幅に低い傾向を示している（図3）。

図3. 地区ごとの秋サケ定置網漁の被害状況

※括弧内数字は定置網の「ヶ統数」を示す

